

吃音がある児童の緊急時におけるコミュニケーション（けがや防犯）

単元の目標

- 健康の保持（4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること
※家族や学級担任等と緊急時の対応について話し合う場を設け、不安等を伝えることができるようになる。
- 心理的な安定（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
※緊急時に、自信をもって他者に状況を話すことができるようになる。
- 人間関係の形成（3）自己の理解と行動の調整に関すること
※得意な方法で、緊急時の状況を伝えることができるようになる。
- コミュニケーション（2）言語の受容と表出に関すること
※様々な場面を想定して、怪我や防犯の内容について表出ができるようになる。

▶ 関連する教科等 毎時間の授業の中に組み入れる 10分×必要な回数

- 特別活動〔学級活動〕（2）ウ心身ともに健康で安全な生活態度の形成
〔学校行事〕（3）健康安全・体育的行事
- 道徳 A〔節度、節制〕自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。
※自立活動における「心理的な安定（2）状況の理解と変化への対応に関すること」「コミュニケーション（5）状況に応じたコミュニケーションに関すること」については、個別の指導計画において、学級担任等と連携をして指導を行う。

▶ 展開例

毎時間の授業の中に組み入れる 10分×必要な回数

学習活動

- 1 身体の部位の名称及び症状を伝える練習をする。
(保健体育との関連)
- 2 「〇〇をぶつけて、△△が痛い。」などと練習で言えるようになったことを、他者に伝える。
(校長先生や養護教諭などの協力を得る)
- 3 「◇◇さんが、□□が痛いと言っている。」などの内容を、文字に素早く書いて伝える練習をする。
(自己肯定感を高める)

◎教師の支援・指導上の留意点

- ◎熱中症やインフルエンザ等、季節に応じた体調の変化についても加えていくようにする。
- ◎学級担任は、面談等で本人や保護者の思いを汲みながら、通級による指導の担当教員と連携し、吃音についての理解授業を行ったり、「不安感や、どうして欲しいのか」等について、学級で伝えたりする場を設定する。
- ◎楽しく話す体験を多くもつことや様々な話し方や読み方を体験したり、自分の得意なことに気付いて自信をもてるようにする。

学習活動

- 4 「家族の〇〇が倒れて苦しんでいる。」などの内容を、校内電話等で伝える練習をする。
- 5 119番通報のマニュアルを作り、家庭とも共有をする。
- 6 「いかのおすし」を歌やリズムで覚える。
- 7 110番通報のマニュアルを作り、修学旅行等の班別行動につなげる。

◎教師の支援・指導上の留意点

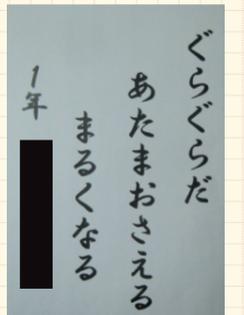
- ◎校内電話の練習では、事務室の職員等から、電話の応対についての説明を受けたり、学校に携帯電話や無線機がある場合は、様々な道具を使って伝える練習をすることも考えられる。
- ◎家庭と連携をして、実際の生活に生かされるようにする。
- ◎オリジナルの歌を作ったり、カルタやすごろくにししたり、楽しみながら取り組めるように教材を工夫する。(注1)
- ◎自己の課題克服が、学校生活や社会生活に広がることにつなげ意欲を高める。

▶ 留意点

- 個別の指導計画を活用し、学級における各教科等の指導や評価と合わせて、学習の効果が高まるようにする。
- 個別の教育支援計画で関係機関と共有し、生活安全において必要となる合理的配慮（教育内容・方法や支援体制）について、引き継いでいけるようにする。

☑ 使用教材・準備物、留意事項など

- 好きなことや得意なことを題材にして、自ら取り組んだり話したりできるような教材を用意する。
 - いかのおすしうた（警視庁公式チャンネル）
 - 119番通報の方法（消防防災博物館）
- (注1) 参考教材
「防災すごろく」「防災俳句」
※生活安全から災害安全や交通安全にも広げる。



車社会と交通安全—学校から駅までの安全な通学—

単元の目標

心理的な安定

- (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関すること。
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動に関すること。
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本技能に関すること。
- (4) 身体の移動能力に関すること。
 - 歩行時の白杖操作を確実なものとし、車道と歩道の関係や屋外の事物など、歩行環境に関する知識などを身に付けることができるようになる。
 - 屋外における様々な音を聞き分けたり、自動車のアイドリング音や走行音から、車の位置や走行してくる方向を知ることができるようになる。
 - 学校から最寄りの駅までの慣れた道路で、視覚障害者誘導用ブロックやアスファルトや土といった路面の違いなどの手掛かりを理解し、適切に活用して目的地まで歩行することができるようになる。

▶ 指導計画・関連する教科等

- 社会科第3学年の指導内容には、(3) イ(ア) 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。があり、施設・設備などの配置に着目するとは、警察署などの関係機関やガードレールや交通標識、信号、カーブミラー、「子ども110番の家」などの施設・設備の位置や分布について調べることとなっている。地域の安全を守る働きについて理解をすることによって、自立活動の心理的な安定の、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲につなげる。

▶ 実態調査

- 必要な情報の収集及び情報の提供
 - ・ 移動に関する困難性から保有する視覚聴覚や触覚等の視覚以外の感覚の状況空間認知（慣れた場所について）
 - 環境把握（日常の観察から）
 - 白杖の基本的操作
- ・ 交通安全に係る各教科等における既習事項
- ・ 保護者や医療機関等からの情報
- ・ 学校は対象とする児童の帰省ルートに近辺の商店や利用する駅、最寄りの交番など単独で白杖により歩行することについて情報提供及び必要に応じて援助を協力していただくよう依頼する。

▶ 指導計画の作成

- 本人の願いや保護者の意向から、将来に向けて、単独で通学できるよう個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用し、教育課程に位置付けた学習計画を作成する。

▶ 本時の展開例

学習活動

- ◆ 歩行時の白杖操作を確実なものとする。
 - ・ 車道と歩道の関係や屋外の事物などの歩行環境に関する知識などを身に付ける。
- ◆ 屋外における様々な音を聞き分けたり、自動車のアイドリング音や走行音から、車の位置や走行してくる方向を知ったりする。
- ◆ 学校から最寄りの駅までの慣れた道路で、視覚障害者誘導用ブロックやアスファルトや土といった路面の違いなどの手掛かりを理解し、適切に活用して目的地まで歩行する。

◎教師の支援・指導上の留意点

- ◎ 基本的な白杖操作技術をより確実なものにすることに加え、白杖や足下による触覚、聴覚などを活用できるようにすることで、安全で効率の良い歩行や危機回避などの判断力の素地を養うことにつながるようにする。
- ◎ 実際に通うことになる時間帯の道路で、実際に移動をしながら屋外の音を録音し、音の聞き分けを学習できるようにする。
 - ・ 天候により車の量、音や状況が変わることを踏まえて指導をする。
- ◎ 実際の社会生活においては、ためらわずに駅員や周囲の人に援助を依頼することなど、安全が確保できる方法を十分に理解し、身に付けられるようにする。

▶ 評価

- (1) 個別の指導計画を活用し、評価をする。

☑ 使用教材・準備物、留意事項など

- 文部科学省作成資料DVD「安全な通学を考える～加害者にもならない～」
 - ・ 視覚障害による困難性が、車や自転車を運転する者たちに、どのように説明・理解されているかを知ることによって、安心感が高まり、困難を改善・克服する意欲にもつながる。
- ・ 地域の安全を守る役 見えているもの、見えている世界が違う（1分35秒～）

通学における交通安全とコミュニケーション

単元の目標

- 自立活動
 - ・ 心理的な安定（2）状況の理解と変化への対応に関すること。
 - ※交通事故等の現場に遭遇したり交通事故の被害者や加害者になったりすることの理解と対応
 - ・ 人間関係の形成（2）他者の意図や感情の理解に関する こと。
 - ※交通事故に自分自身関わった際の他者の感情や行動の理解
 - ・ 環境の把握（5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する こと。
 - ※交通事故の状況や情報からの確かな判断や行動の理解
 - ・ コミュニケーション（5）状況に応じたコミュニケーションに関する こと。
 - ※緊急時等の場面にふさわしい言動の理解
- 安全な通学をするために、節度ある生活や心身の健康の保持が大切であることを知る。
- 通学時における交通事故等のリスクについて知り、自分自身の身を守り安全に行動ができる。
- 緊急時に冷静に判断し行動することを理解し、具体的な他者との関わり方や連絡の方法を知る。

▶ 関連する教科等 5時間 状況を変えながら同じ流れで学習を計画する

- 保健体育 保健分野 (3) ア(7) 交通事故などによる傷害は人的要因や環境要因などが関わって発生すること。(イ) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。(エ) 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。

▶ 本時の展開例

過程	学習活動	◎教師の支援・指導上の留意点
導入 10分	◆学校周辺の交差点の状況から危険予測の方法を知る。	※周囲の状況に意識を向けることや経験したことを他の場面にも結び付けて対応することが苦手な生徒が多い場合には、行動の仕方を短い文章にして読むようにしたり、教師が適切な例を示したりしながら、場に応じた行動の仕方を身に付けられるようにする。 ◎学校周辺の交差点等の写真や動画を撮影し、生徒たちが考えながら、危険予測の方法を知れるようにする。 ・自分自身の通学路や、校外学習における危険予測にも発展できるようにする。

過程	学習活動	◎教師の支援・指導上の留意点
展開 30分	◆交通事故の様々なケースにおける加害者・被害者の役割演技を通じ対処の方法を知る。	◎歩行者と自転車、自動車と自転車等、様々なケースを想定して役割演技を行うようにする。 ・被害者役と加害者役の両方の役割を演じるようにすることで、理解が深まる。十分に時間を確保するようにする。 ・警察署の交通課や交通安全協会等の協力を得て、交通事故の話の聞いたり、実際の道路で役割演技を行うなど、地域の協力を得ながら、より生活に即した場面を設定できるようにする。
まとめ 10分	◆役割演技の様子を撮影したビデオを見ながら振り返る。	◎自分自身の言動を客観的に見たり、適切な判断や行動ができている他者と比べたりしながら、振り返りができるようにする。必要に応じて、再度、役割を演じ、定着できるようにする。 ※朝の会における健康状態の把握や緊急時の適切な対応を確認しておくことが、交通安全に、そして安全な通学につながることを、教師が意識して指導をするようにする。

▶ 評価

- 安全な通学をするために、節度ある生活や心身の健康の保持が大切であることを、日常の生活につなげて理解することができたか。
 - 通学時における交通事故等のリスクについて知り、実際の場面で、自分自身の身を守り安全に行動ができるようになったか。
 - 緊急時に冷静に判断し行動することを理解し、具体的な言葉や表現の方法で、他者との関わり方や連絡の方法を知ることができたか。
- ※より実際に近い場面で、具体的に生活に生かせるようになったかについて評価をする。

☑ 使用教材・準備物、留意事項など

- 以下の内容に留意して教材を作成する。
 - ・ スケジュールや予想される事態や状況等を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりする。
 - ・ 様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手が考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けられるようにする。
- ・ 指示の内容や、手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材・教具等の工夫をし、手順表などを活用しながら、順序や時間の概念等を形成できるようにする。
- ・ 相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付けられるように、実際の場面に近い状況で、コミュニケーションを学ぶことができるようにする。

地震だ！津波だ！命を守ろう！！

単元の目標

- 生活 イ安全2段階(イ)安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付ける。
- 国語 A聞くこと・話すこと 2段階イ簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をする。
※教師の指示により避難行動をすることができる。
- 算数 C測定2段階 ⑦長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに興味をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりする。
※現在の位置から比べて、より高い場所を見つけたり、表現したりする。
- 道徳 D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
生命の尊さ(17)生きることのすばらしさを知り、生命を大切にする。
※災害から命を守ることの大切さに気付くことができる。
- 自立活動 2心理的な安定(2)状況の理解と変化への対応に関すること
※大津波警報を聞いても、教師の指示を聞いて、避難ができる。

▶ 指導計画・関連する教科等 5時間 展開例 2/5

- (1) 津波を知ろう。津波から逃げる方法を知ろう。(1時間)
- (2) 津波から逃げる方法を実際にやってみよう。(3時間)
- (3) 振り返りをしよう。(1時間)

▶ 本時の展開例

過程	学習活動	◎教師の支援・指導上の留意点
導入	1 挨拶をする。 ・本時の流れを確認する。 ・それぞれの避難行動について、練習をする。	◎生活 安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けられるようにする。 ・必要に応じ、身に付けられるまで繰り返し学習する。
展開	2 緊急地震速報を聞いて身を守る。 	◎国語 教師の指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動ができるようにする。 ・必要な児童には、ミニホワイトボードを使う等、視覚的な支援をする。 ◎算数 高さを、一方を基準にして比べることに興味をもったり、高い建物等の名称で表現したりすることができるようにする。 ・必要に応じ、地域の高い建物等について、具体的名称を使ったり実際の写真を振り見せたりする。

過程	学習活動	◎教師の支援・指導上の留意点
展開	3 大津波警報を聞いて避難する。  	◎道徳 折に触れて命の大切さを話したり、教師が率先して避難する様子を見せたりして、災害から命を守ることの大切さに気付くことができるようにする。 ◎自立活動 心理的な安定において、緊急地震速報や大津波警報を聞いても、教師の指示を聞いて、避難ができるようにする。 ・慣れていない児童には、直前に鳴ることを伝えるなど、予測がしやすいように配慮する。 ◎自立活動 身体の動きにおいて、家庭や社会生活においても、できるだけ自力で高い場所に避難ができるようにする。
まとめ		・学習したことを家庭に伝え、家庭においても復習や般化ができるようにする。また、社会生活において、ためらわずに駅員や周囲の人に援助を依頼することなど、安全が確保できる方法を十分に理解し、身に付けられるようにする。 ◎避難の様子を撮影しておき、避難をすることができたか、自己評価ができやすいようにする。

▶ 評価計画

- 生活単元学習においては、各教科等における指導のねらいについて、それぞれ評価をしていくことができるようにする。児童の自己評価を含めて、活動の様子を撮影しておき、振り返りをする中で、ねらいについての評価がしやすくなる。個別面談等で保護者に様子を見てもらい、評価を共有することもできる。

✓ 使用教材・準備物、留意事項など



事前に、同じ場所で教師が避難している様子を撮影し、その様子を映像で見せる。



体育館を使って、避難をする高いところが分かりやすいようにする。



津波の大きさや、繰り返し押し寄せることが分かるようにする。

障害の状況等を踏まえた防災情報の受信と発信

単元の目標

- 特別活動（ホームルーム活動）
 - ・心身ともに健康で安全な生活を送ることができる。
 - ・日頃の備えを含め、災害等から身を守るための情報収集及び発信の方法を知ることができる。

▶ 指導計画・関連する教科等 5時間 展開例1～5/5

- (1) 自然災害の種類と過去の被災についてインターネットで調べる。(1時間)
- (2) 関心が高かった災害及び過去の被災地について、その地域のホームページや災害アーカイブ等から調べる。(1時間)
- (3) 自分の地域にどのようなハザードマップがあるか調べる。地域の防災担当者と電話等で連絡をし、詳しく話を聞く。(1時間)
- (4) 自己や級友の障害の困難性と災害との関連性について調べたり考えたりし、災害時の備えについて考え、家族や学校、地域（医療を含む）と共有する。(1時間)
- (5) 調べた情報について、他の地域と同じ困難性がある生徒等と共有するための方法を考える。また、今後、実際に共有していくためには、どの授業が関連しているか、どの授業で取り組めそうかについて考える。(1時間)

● **地理歴史** 地理総合 C持続可能な地域づくりと私たち (1) 自然環境と防災
 ア(ア) 我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。(イ) 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付ける。

● **自立活動** 本単元を行う際は、個別の指導計画に則した配慮等を行う。
 災害時における自己の困難性を知り、自己の行動や感情を調整したり、災害時の備えについて、他者に対して働きかけたりすることができる。
 入院中等の状態により、情緒が不安定な状態になることがある。そのようなときは、自分の不安な気持ちを表現できるようにしたり、心理的な不安を表現できるような活動をしたりするなどして、情緒の安定を図る必要がある。また、状態によっては、テレビ会議システム等を積極的に活用する。

▶ 単元計画例

過程	学習活動	◎教師の支援・指導上の留意点
1 時間目	1 自然災害の種類と過去の被災についてインターネットで調べる。	◎最近のニュース映像等から導入し、意欲的に取り組めるようにする。検索に必要なキーワードを用意しておく。
2 時間目	2 関心が高かった災害及び過去の被災地について、その地域のホームページや災害アーカイブ等から調べる。	◎ポートフォリオ的な評価ができるように、検索した情報や画像等は保存ができるようにしておく。 ・調べたことを共有し、自分たちの地域の災害調べにつなげるようにする。

過程	学習活動	◎教師の支援・指導上の留意点
3 時間目	3 自分の地域にどのようなハザードマップがあるか調べる。地域の防災担当者と遠隔システムを活用し、オンラインでつないで詳しく話を聞く。	◎ハザードマップを重ね合わせ、必要な情報が一目で分かるようにしたり、自分の住んでいる場所のリスクの優先順位を付けるなど、マップの活用方法について考えていくようにする。
4 時間目	4 自己や級友の障害の困難性と災害との関連性について調べたり考えたりし、災害時の備えについて考え、家族や学校、地域（医療を含む）と共有する。	◎服薬や電源の確保等、実際にどうなっているのかを自分たちで確認し、不足や心配がある場合には、どこに伝えていったらよいかまで考えるようにする。
5 時間目	5 調べた情報について、他の地域と同じ困難性がある生徒等と共有するための方法を考える。また、今後、実際に共有していくためには、どの授業が関連しているか、どの授業で取り組めそうかについて考える。	◎自分たちと同じ悩みや困難性がある生徒を他の都道府県まで広げて探したり、卒業生や地域にある当事者の会（自助グループ）とつながったりできるようにする。

▶ 評価する際の留意点

- ポートフォリオ的にデータを保存したり活用したりすることにより、自己評価や相互評価ができるようにする。

使用教材・準備物、留意事項など

- ・ 自然災害情報室（国立研究開発法人 防災科学技術研究所）
<https://dil.bosai.go.jp/>

快適で安全な住まい方（地震や火事からの避難）

単元の目標

- 住まいの整理・整頓や清掃、地震や火事などの災害から身を守ることを理解などに関わる学習活動を通して、快適な住まい方や安全について理解し、実践する。
- 豊かな家庭生活や地域生活を営むために、協力して取り組もうとする態度を養う。

指導計画・関連する教科等

8時間 展開例 2～7 / 8

- (1) 阪神淡路大震災等の直下型の地震等について、映像等を見て、安全な住まい方について学習していくことを知る。(1時間)
- (2) 段ボール等を使って避難所を作り、現在の生活と比較をしながら、快適な住まい方について考える。(6時間)
- (3) 学校生活や家庭生活、校外学習等で社会に出た時の生活を含め、快適で安全な住まい方について考え、まとめる。(1時間)
 - ・「自然災害」については、『社会科ウ地域の安全 地域の実態に応じて、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から取り上げ、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるようにすること。』『理科B地球・自然 天気などに関する指導に当たっては、災害に関する基礎的な理解が図られるようにすること。』と関連させる。
 - ・「協力して取り組もうとしたりする態度」については、自立活動 3人間関係の形成 (4) 集団への参加の基礎等と関連させる。
 - ・「整理・整頓」や清掃については、様々な日常生活の場面における指導と関連付けて学校生活全体を通して指導する。
 - ・年間を通じて行われる「避難訓練」から、地震や火事などの緊急時の対応について、非構造部材の理解やガスや火器などの扱いと関連させ、安全な住まいについて指導をする。
 - ・必要に応じて、避難生活を想定して「B衣食住の生活 ア食事の役割(ア) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること」を指導したり、避難所での生活を想定して、「A家族・家庭生活 イ家庭生活と役割(イ) 家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の役割を考え、表現すること」「A家族・家庭生活 ウ家庭生活における余暇(ア) 健康管理や余暇の過ごし方について理解し実践すること」等と関連させて指導計画を作成することも考えられる。

単元計画例

過程	学習活動	◎教師の支援・指導上の留意点
2時間目	1 避難所について知る。	◎学校生活の様々な災害を想定した避難訓練等と関連させ、生徒がより身近に考え、実際の災害に際して自立して行動できるようにする。また、地域の協力を得てこれらの学習活動を行うことで、地域との連携を深め、障害の理解啓発を図る。
3時間目	2 避難所の仕切りとなる素材と、それを集める方法を考える。	◎阪神淡路大震災や東日本大震災における実際の避難所の写真等を見ながら考えるようにする。 ・学校が避難所(福祉避難所)に指定されている場合は、防災倉庫を確認したり、仕切りがある場合には、実際に使用する。

過程	学習活動	◎教師の支援・指導上の留意点
4時間目	3 スクールバス等を利用して、地域に、仕切りの素材を集めに行く。	◎地域の協力を得ることで、協力して取り組もうとする態度の育成につなげるようにする。 ・リヤカー等を使用して、交通機関を使用せずに、自分たちの力で素材を集めに行くことも考えられる。
5時間目	4 避難所開設に携わる防災担当者から話を聞きながら、簡易的な避難所の設計をする。	◎防災担当者への依頼や連絡等は、可能な限り生徒が行うようにする。 ・行政の防災担当者以外にも、地域の消防団や地区防災会等から指導を受けることも考えられる。
6～7時間目	5 簡易的な避難所を作りながら、実際の住まいと比較をする。	◎プライバシーの問題やトイレについて等、実際の住まいや生活と比較をしながら体験的に学べるようにする。



評価

- (1) 安全な住まいは、地震や火事などの災害から身を守ることにつながり、避難訓練等に真剣に取り組む態度を育むことができたか。
- (2) 豊かな家庭生活や地域生活を営むために、協力して取り組もうとする姿勢や態度を育むことができたか。
上記について、単元を通しての活動の様子や、友達や地域の方とのやりとりの観察から評価をする。

使用教材・準備物、留意事項

- ・ 学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック（平成27年3月 改訂版 文部科学省）の写真を参考に、自校の非構造部材の写真を撮影し比較できるようにする。
https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/shuppan/1291462.htm
- ・ 地震を知ろう—地震災害から身を守るために—（平成26年2月 地震調査研究推進本部）
<https://www.jishin.go.jp/main/pamphlet/kodomopanf/>

生命(いのち)の安全教育—自分も友達も守ろう—

単元の目標

- ・体の大切な部分に気付き、自分と相手の体を守るための行動ができるようにする。
- ・自分の心や体が守られていないと感じたときの対処方法を考えることができるようにする。

題材について

本単元では、「見ない・見せない」「触らない・触らせない」というキーワードを基に、なぜ他人に気軽に触ったり触らせたりしてはいけないのかを考えられるようにする。体の大切さに気付かせ、様々な場面における自分の身の守り方を考え、日常的に自分と相手の体を守るための行動を意識できるようにする。

▶ 単元計画例(全2時間)

時	主な学習活動	◎指導上の留意点 ☆評価 ●安全教育の視点に立った留意点
1 (前時)	体の大切な部分について知り、自分と相手の体を守るための行動について考える。	●体の大切な部分や体を守るための行動について、分かりやすい言葉でまとめて理解を促す。 ☆「水着ゾーン」や「マモルンジャー」の言葉とハンドサインの意味を理解し、適切に活用している。
2 (後時)	自分の身の守り方や、守られていないと感じたときの対処方法を考え、実践する。	◎日常生活の場面を取り上げて、具体的にイメージしながらロールプレイを行うことができるようにする。 ☆場面に合った自分の身の守り方を考えている。

▶ 本時の展開例

【前時の展開】

前時のねらい

体の大切な部分に気付き、自分や相手の体を守るための行動について考えることができる。

学習活動 学習内容	◎指導上の留意点 ☆評価 ●安全教育の視点に立った留意点
<p>◆スライドショーを見て、体の大切にしなければいけない部分について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プールに水着で入る理由や意味を考える。 ・体には見せてはいけない部分があることを知る。 <p>◆本時のめあてを知る。</p>	<p>◎冒頭に、大切な学習であることをおさえる。</p> <p>◎スライドショーを用いて、児童の興味関心を引く。</p> <p>●学校場面や生活場面を取り上げて、日頃から体を見せたり触ったりする場面があることに気付かせる。</p> <p>●「水着ゾーン」という言葉を使い、体の大切な部分をおさえる。</p> <p>☆体の大切な部分(水着ゾーン)の意味と場所を理解している。</p>

じぶんと みんなの からだを まもる ほうほうを しよう。

- ◆クイズを通して、自分と相手の体を守るための行動について考える。
 - ・着替えるときに、水着ゾーンを見せないようにする。
 - ・相手が着替えているときは、見ない。
 - ・相手が嫌がる場所(水着ゾーン)は、触らない。
 - ・自分の水着ゾーンは、触らせない。
- ◆場面に合わせて、体を守るためにどのように行動したら良いのかを考える。
 - ・「マモルンジャーすごろく」

- ◎ストーリー仕立てのクイズにして、場面に応じてどのように行動すればよかったかを考えられるようにする。
- ◎マモルンジャーのイラストから、場面に合わせた望ましい行動を考えられるようにする。
- 水着ゾーンは守らなくてはいけない部分であることを繰り返し確認する。
- ハンドサインを使って、体を守るための具体的な行動の仕方を考えられるようにする。
- ◎グループに分かれることで、自分の考えを周囲に伝えられるようにする。
- 生活場面が描かれたイラストを見せ、場面に応じた行動の仕方(マモルンジャー)を選択するようにする。
- ハンドサインを繰り返し使い、生活の中でも使えるようにしていく。

- ◆本時の学習を振り返る。
 - ・体の大切な部分「水着ゾーン」
 - ・自分と相手を守る行動「マモルンジャー」

- ◎タブレットを活用して、一人一人が自分の意見を書き込み、全体で共有できるようにする。
- 「マモルンジャー」に気を付けることで、自分だけでなく、相手を守る行動につながることをおさえる。
- ☆「水着ゾーン」や「マモルンジャー」の言葉とハンドサインの意味を理解し、適切に活用している。

【後時の展開】

後時のねらい

嫌な触られ方をしたときや、自分の心と体が守られていないと感じたときに取るべき行動を理解し、相談できる相手を考えられる。

学習活動 学習内容	◎指導上の留意点 ☆評価 ●安全教育の視点に立った留意点
<p>◆前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水着で隠れる場所(プライベートゾーン)は「見ない」「見せない」「触らない」「触らせない」。(ジェスチャー) 	<p>◎イラストなどを見て思い出せるようにする。</p> <p>☆キーワードを言いながらジェスチャーで表現している。</p>
自分の心と体を守るためにどうしたらよいか考えよう。	
<p>◆よいタッチ悪いタッチのカードを分けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使って相手や場面の違うタッチを自分の感覚で二つに分ける。 ・どのように分けたか、大型提示装置に示されたものを共有する。 <p>◆嫌なタッチをされそうになったりされたりしたときにどうしたらいいか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例題をみんなで考える。 ・ワークシートに記入する。 ・一人で考えられないと訴え、ヒントカードをもらう。 ・映像を見てロールプレイで演じる。 ・声を出したり逃げたりする。 	<p>◎場面の理解ができない児童には具体的な動作を行う。</p> <p>☆タブレットで、よいタッチ、悪いタッチを自分で分けている。</p> <p>☆嫌なタッチは人によって違うこともあるが、人が嫌がることはしないことを共有している。</p> <p>◎声を出したり逃げたり相談したりすることを確認する。</p> <p>◎選択肢を用意して話し合う。</p> <p>◎自力解決ができない児童にはヒントカードを渡す。</p> <p>☆ロールプレイをしたり友達の演技に反応したりする。</p>

学習活動 学習内容

◎指導上の留意点 ☆評価
●安全教育の視点に立った留意点

- ◆まとめをする。
- ・自分を守るためにどうするかを、ワークシートに記入する。
- ・相談できる人を考える。

- ◎自立解決できない児童には選択肢を描いたヒントカードを渡す。
- 性被害に遭わないことを意識するようにする。
- ◎実際の事件を紹介し、身近なこととして考えられるようにする。
- ◎被害に遭った人は決して悪くないことを知らせる。
- ☆拒否の気持ちを表現したり、相談相手を考えたりできる。

▶安全教育の視点に迫るための手立て

- ・イラストやスライドショー、クイズやロールプレイなどを用いることで、視覚的にも体の大切さや、自分や相手の体を守るための行動に気付けるようにする。
- ・学習の要点をわかりやすい言葉でまとめ、キーワードやハンドサインを繰り返し練習することで、生活の中で意識できるようにする。